

第18期
「京都教師塾」

令和6年4月27日

学びの広場

April

京都教師塾通信

No.11

京都市教育委員会 教員養成支援室

祝

卒塾おめでとうございます!

第18期の皆さん、卒塾おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

京都教師塾での学びが、これからの人生で出会う様々な出来事を乗り越えて
いく上で、皆さんの大きな力となることを願っています。

教師塾における学びは、ここで一つの区切りを迎えますが、教師という道に
「学びの終わり」はありません。同じ志をもつ仲間と共に、切磋琢磨し、学び続
けたことの意味を、この機会に今一度確かめ、次のステージへと歩みを進めて
いってください。

今日迎える「ゴール」は、未来へと向かう新たな「スタート」です。京都教師
塾で学んできた皆さんが、『一人一人の子どもを徹底的に大切にする人間味
あふれる温かい教師』としてご活躍されることを心より祈念いたします。

「学びの広場」は、皆さんの学びを支え、深めるためのものです。これまで発行してきた「学びの広場」と合わせて、この最終号を、学びの足跡としてください。

レポート担当の先生方からのメッセージ

1組・2組 竹内 直美 専門主事

卒塾おめでとうございます。皆さんの教師への憧れ、情熱、意欲を強く感じながら、一緒に充実した時間を過ごせました。その純粋な初心と塾での学びをいつまでも忘れずに今後の毎日に活かして過ごしてください。もう一つ大切にしてほしいことは仲間とのつながりです。同じ志をもった仲間は宝物です。私たち教師塾スタッフはいつまでも皆さんを応援しています。「*Do my best* 百点満点でなくていい。今やれることを精一杯。自分を信じて、きっとできる」頑張ってください。



3組・4組 中村 季弘 専門主事

卒塾おめでとうございます。みなさんの京都教師塾での様子から、教師を目指す熱く強い思いがひしひしと伝わってきました。また、レポートを読んでいて、みなさんの教育に対する情熱と真剣な思い、そして回数を重ねるごとに成長する様子を感じていました。教師になろうと考えている強い志、そして、周りの方々への気配りや優しさといったことをこれからも大切にしていってください。今後、みなさんが活躍されていることを願っています。応援しています。

5組・6組 太田 勝 専門主事

教師塾の学びの中には「主体的」「協働」「連携」というワードがあふれていました。その言葉に象徴されるようにみなさんは自らの意思で参加し、志を同じくする仲間と対話を通じてその学びを深めていきました。学んだ内容はもちろん、仲間との出会いは大きな財産となることでしょう。先生になることがゴールではなく、人との信頼関係を築いていくこと、謙虚にこれからも学び続けてくれることに期待しています。さあ、ここからだ！



7組・8組 藤田 路乃 専門主事

18期生の皆さん、卒塾おめでとうございます。「先生になりたい！」という想いのもと、日々忙しい中、本当によく頑張ってきました。そのひたむきさに、胸が熱くなる思いでした。この教師塾を通して、たくさんの出会いがありましたね。『出会いは財産』です。これまでの出会いを大切に、これからの様々な学校現場での新たな出会いに期待し、進んでいってください。熱い想いをもった、夢に向かって努力をしてきた皆さんの未来を楽しみにしています。これからも応援しています！



グループアドバイザーの先生方からのメッセージ



1組 高井 敬祐 先生

教師の仕事は「しんどいこと」が少なくありません。しかしながら、それを上回る感動を子どもたちは与えてくれる「やりがいのある」仕事です。塾生の皆様は、今回の講義や講座を通して、より一層教師への思いを強くされたに違いありません。その思いを原動力に試練をのりこえて下さい。

2組 本多 逸朗 先生

ものごとをポジティブにとらえ、『労いと感謝する気持ちをもち続け、それを伝えることをわすれない』ように。卒塾おめでとうございます。皆さんの長い人生の最初にかかわれたことを嬉しく思っています。ありがとうございました。また、会えることを楽しみにしています。

3組 大由里 昭彦 先生

子供達には無限の可能性があり、いいところがあります。いいところは見つけようとしないとみつきりません。子どもたちに寄り添い、いいところをいっぱい見つけてどんどん褒めてあげてください。また、子供達から多くのことを学び元気をもらい笑顔あふれる子供たちの成長を支えてあげてください。

4組 福村 智子 先生

卒塾、おめでとうございます。現場では、たくさんのドラマが日々生まれています。楽しいこと、嬉しいことはもちろんたくさんあります。でも、悔しいこと、時には涙を流してくじけそうになることもあります。これからの人生、そのような時には、この教師塾の講座で学ばれたたくさんのお話を思い出してください。塾生の皆さんからは、熱い情熱が、毎回、伝わってきました。きっと、これからの人生の大きな礎になっていることと思います。皆さんの活躍を心から願っています。

5組 田中 佳子 先生

卒塾おめでとうございます。短い間でしたが、みなさんとともに学べたことをとてもうれしく思います。学校は「幸せな大人になる、人を幸せにできる大人になる」ために学ぶところです。できることを増やしていくところなのです。目の前にいる子どもたちがそうなれるよう、常に寄り添い、共に学んでいける先生になってください。応援しています。採用試験がんばってください！

6組 山田 千治 先生

教師は子どもと共に育ちます。様々な家庭環境、成育歴の中で登校してくる子どもたち。子どもたち一人一人を正しく理解し、学力、社会性を学校現場で育てていく責任は重大で自己研鑽の毎日ですが、子どもたちが頑張る姿や成長を見るとき、教師の仕事の喜びを感じます。

7組 橋本 崇美 先生

卒塾おめでとうございます。皆さんの「学校の先生になりたい」という熱い思いを常に感じていました。語り合いそして学びあったこの教師塾の仲間たちから得たものを糧に自分なりたい道へと歩み続けていってください。そして素敵な教師になれることを願っております。

8組 藤本 節子 先生

未来の社会を担う子どもたちのために、皆さんの熱心でエネルギーあふれる教育に対する思いをぜひ教師という仕事に生かしてください。また、初心をいつも忘れず、努力を惜しまず、夢と希望をもって子どもたちと一緒に学び続ける姿勢も大切にしてください。ご活躍を応援しています。

第9回京都市教育学講座 講師：京都市教育委員会 教員養成支援室参与 初田幸隆 先生 「学校現場での生徒指導対応を想定したロールプレイング」

第9回は、初田幸隆先生をお招きしての、ロールプレイング形式での講座でした。ロールプレイングや講義を通して、生徒や保護者に対する時の基本的な心構えや姿勢、組織的な対応の重要性などについて考えることができました。ロールプレイングを通して自らの対人関係における力量を把握し、自分自身にこれからどのような力を付けていったらいいかを考えるよいきっかけになったことと思います。



仲間のレポートに学ぶ



今回のロールプレイングを通して学んだことは、教師が落ち着いて対応していることで、当事者である子ども自身や保護者も落ち着いて相談できるということです。ロールプレイングで実際に自分が生徒指導対応を体験したとき、1回目は特に話の構成の仕方や、まとめ方がわからず、思いついたことから話していったため、大学生が相手でも印象に残らないような面談になってしまいました。2回目は1度目の失敗を生かして、事前に何をどの順番で話し合うか考えておき、ゆっくりはっきりと話すことを意識すると、相手も理解しやすく、会話の間に考える時間ができたため、より子どもの意思を尊重した今後の方針を考えることができました。また、初田先生が学年主任として参加されたモデリング型では、初田先生はもちろんのこと担任役の塾生の方も、保護者役の目を見て話し、聞かれたことに対して慌てたり、濁したりすることなく答えていたことが印象に残っており、教師のそのような真摯に向き合う姿勢が保護者や子どもたちの信頼感につながっているのではないかと考えました。

講義全体を通して学んだことは、子どもに対してだけでなく、保護者に対しても共感的な姿勢をもつと同時に、学校や教師としての自分の意見も伝えることの重要性です。私は、相手のことを理解しようとして共感的な姿勢をもっていると、相手の意見だけを尊重してしまうことがあります。しかしモデリング型を見学しているとき、学校側が相手の気持ちを尊重しながらも、提案という形で自分の考えをしっかりと伝えており、結果的に教育のプロとして、共に子どもを大切に思う大人としての教師の言葉を保護者が信頼して、今後の方向性を双方が納得したうえで話し合いがまとめられていました。

教師がしなくてはならないのは、共感だけでなく、解決策や方向性の提案といった、今後の動きに焦点を当てた話し合いの場の提供なのではないかと考えました。そのために、日頃から子どもたちだけでなく保護者や、先生方との信頼関係を築くこと、提案ができるような知識をつけていくことが必要であり、心がけていきたいです。

ロールプレイングⅡでは、経験者（初田先生）が面談に入ることで状況が変わっていくことが実感できたことと思います。そしてその実感が「共感だけでなく、解決策や方向性の提案といった、今後の動きに焦点を当てた話し合いの場の提供」という経験者の姿からの学びであることがよくわかります。寄り添いや信頼についても「教育のプロとして、共に子どもを大切に思う大人としての教師の言葉を保護者が信頼」と考えているところに、また一つ学びが深まったことが感じられます。現場では面談以外の場面でも経験者に学ぶ機会はたくさんあると思います。その経験者とつながるための自分の強みは何か、どんな力を付けておくべきなのか。そのことが協働・同僚性にもつながっていくことなのでしょうね。

～レポート担当スタッフからのコメント～

